

手なれの文に  
夜毎の夢も

はさみては  
露しげし

少女子 小林恒

一、明治の御代の乙女子は  
心も清く身もつよく  
母ともなれや正行の  
大和島根の女郎花  
深き恵にそぼちつゝ  
八重と一重に芳しく

たかき光りを仰ぎつゝ  
ありし昔のかたみなる  
妻ともなれよ忠興の  
露のなさけも天地の  
雨にも風にも撓みなく  
世界に園に咲きいでよ

梅(竹柏園歌會兼題)

増山み雪子  
大河内國子  
榊山常子

すりなかつ墨のかならて窓近く匂ふや庭の梅の初はな  
うなぬ子かせわしくわれにしちせけりはちの梅が枝花のさきぬこ

池の上にちりうく梅の花ひらを餌さや見るらん鯉のむれくる  
春なさみ巢こもりしたる鶯もまつ咲く梅にゆめさますらん

兒玉千代子

なきわこま去年ばとひこし木下川の老木の梅の今さかりなり

松井こも子

北向の梅のしこ枝咲にけりきりのこされてうりのこされて

宮本よりぬ

祖父君のえに植なへし梅林春くる毎に恵をそれもふ

大竹以勢子

ありし世に好みてめてし人ならんおくつきのあたりあまた梅あり

松浦島子

しきみうるみ寺の門のちさき家のみなみの軒にうめの花さく

浅井鐵子

けふあすばまた早けれと師の君に折りてさゝくる軒の梅かえ

堀孝子

風寒みちりくる花を袖にうけて梅のこかけにうなぬこ遊ぶ

堀越科子

御社に筆奉り梅たちて手習そめし昔ゆかしき

大村八代子

そゝろにも筆とりて見ん朝かな紅梅にほふひんがしの露

長谷川柳子

一つ樹に一つ苔の梅なからおくれ先たつ宿世ありけり

久保花子